

[大島管内の遺伝資源の収集・評価・保存]

ブバルディア第3期品種の周年生産における生育特性の解明
～シェード期間が第3期品種の春期と夏期の開花および収量に及ぼす影響～

作山美穂・大橋友紀*

(島しょセ大島) *現生産環境科

【要 約】春期と夏期に適するシェード期間については、「東京スター オーロラ」ではともに21日、「東京ダブルスター フラミンゴ」では各々7日と14日と考えられる。「東京ダブルスター フラミンゴ」は、出荷上影響のない程度だが夏期に奇形花が多発する。

【目 的】

2023年に出願公表されたブバルディア第3期2品種の普及や安定生産、品質向上のためには、適切な栽培管理方法を明らかにすることが重要である。本試験では、各品種について、シェード期間が春期と夏期における開花および収量に及ぼす影響を明らかにし、栽培マニュアル作成に向けた基礎資料とする。

【方 法】

一重品種の「東京スター オーロラ (以下、「オーロラ」)」および八重品種の「東京ダブルスター フラミンゴ (以下、「フラ」)」について、2024年に定植した株を供試した。シェードは遮光用フィルム(トーカンホワイトシルバー)を使用し、16:30～8:30の時間帯で処理を行った。シェード期間は7、14、21日間の計3区(以下、7日区、14日区、21日区)を設け、各区5株×3反復とし、生産者の慣行法に準じて仕立ては行わなかった(表1)。到花日数、採花本数、切花長、奇形花率などの収量性を品種別に調査した。

【成果の概要】

1. 春期：奇形花の発生程度はいずれも0.2%以下と極めて低率であった(表2)。「オーロラ」では、21日区の到花日数が最も短かった。また、21日区の1株あたりの採花本数は10本と、他の区と比較して2本以上多く、花蕾数も27と最も多かった。「フラ」では、到花日数について、7日区と14日区の間で有意差があったが、その差は2日と小さく、それ以外の調査項目ではいずれも差がなかった。以上より、春期のシェード期間は、「オーロラ」では21日、「フラ」では7日が適すると考えられた。
2. 夏期：「オーロラ」では、シェード期間が長いほど到花日数が短く、採花本数と花蕾数が顕著に多くなった(表3)。7日区では、開花しないシュートが多く、側枝数も多く、草姿が悪いと判断された。「フラ」では、奇形花率がいずれの区も72.4%以上と高く、その一因としてシェード内の高温条件が考えられた(図2)。ただし、奇形花のほとんどはクロロフィル(緑の筋)で(図1)、このタイプは出荷基準に影響しないため、切り花としてはいずれも可販品と判断された。その他の品質については、21日区では切花長が有意に短くなり、7日区では有意に側枝数が増え、花蕾数が少なくなった。以上より、夏期のシェード期間は「オーロラ」では21日、「フラ」では14日が適すると考えられた。

【残された課題・成果の活用・留意点】

1. 秋、冬期において、シェード期間が開花および収量に及ぼす影響を調査する。
2. 「フラ」の夏期の奇形花対策として暑熱低減対策が奇形花に及ぼす影響を調査する。

表1 シェード開始日と収穫調査期間

	春期	夏期
シェード開始日	2025年4月14日	2025年7月21日
収穫調査期間	2025年6月3日から同年6月19日	2025年8月25日から同年9月16日

表2 シェード期間が第3期品種の春期の開花および収量に及ぼす影響

品種名	シェード期間	到花日数 ^z	採花本数 (本/株)	切花重 (g)	切花長 (cm)	茎径 (mm)	側枝数	花蕾数 ^y	奇形花率 ^x (%)								
オーロラ	7日	54	a ^w	7	b	37	a	70	a	4.7	a	21	a	18	c	0.1	a
	14日	52	b	8	ab	30	a	63	a	4.7	a	16	a	23	b	0.0	a
	21日	51	b	10	a	32	a	62	a	4.4	a	17	a	27	a	0.0	a
フラミンゴ	7日	48	a	7	a	28	a	59	a	3.5	a	15	a	9	a	0.0	a
	14日	46	b	7	a	34	a	59	a	3.8	a	16	a	11	a	0.2	a
	21日	47	ab	8	a	23	a	52	a	3.5	a	14	a	11	a	0.2	a

z) シェード開始から開花までの期間 y) 上位3節で開花がみられた花枝にある花蕾数

x) 調査した花数のうち奇形が発生した花の割合

w) 同項目の異なる英文字間には、Tukey Kramer法により5%水準で有意差あり (n=5)

表3 シェード期間が第3期品種の夏期の開花および収量に及ぼす影響

品種名	シェード期間	到花日数 ^z	採花本数 (本/株)	切花重 (g)	切花長 (cm)	茎径 (mm)	側枝数	花蕾数 ^y	奇形花率 ^x (%)								
オーロラ	7日	47	a ^w	7	c	27	a	80	a	3.7	a	15	a	7	c	0.0	a
	14日	44	b	12	b	24	ab	75	ab	3.6	a	10	b	13	b	0.0	a
	21日	40	c	18	a	19	b	71	b	3.5	a	7	b	20	a	0.1	a
フラミンゴ	7日	37	a	8	a	30	a	77	a	3.5	a	11	a	9	b	72.4	a
	14日	35	b	11	a	21	b	69	ab	3.4	a	7	b	11	a	76.5	a
	21日	35	b	11	a	17	b	64	b	2.9	a	5	b	11	a	76.4	a

z~w) 表2 脚注参照



花房全体

花筒の曲り

クロロフィル (緑の筋)

図1 「フラ」の奇形花の様子

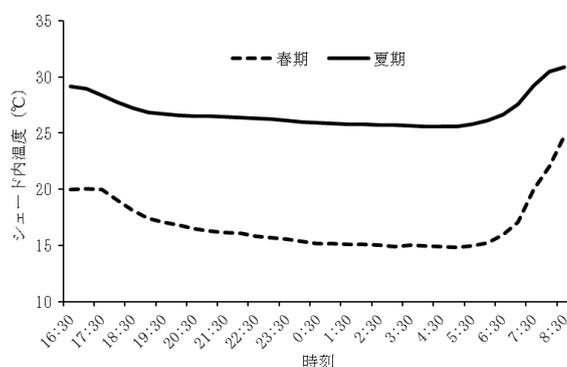


図2 春期と夏期のシェード開始 (16:30) から終了 (8:30) までのシェード内温度 (注) シェード内温度は各時期のシェード期間中の平均を示す